

## 第59回島根県総合開発審議会

日 時 令和6年10月17日(木)  
10:00～12:00  
場 所 ホテル白鳥 鳳凰の間

○服部会長 ただいまから第59回島根県総合開発審議会を開催いたします。

知事から一言ご挨拶いただければと思います。よろしくお願いいたします。

○丸山知事 県知事の丸山でございます。本日は平日の午前中という時間帯にもかかわらず、多くの委員の皆様方にご出席を賜りまして、誠にありがとうございます。

委員の皆様ご承知のとおり、第2期の創生計画の策定に当たりましては、8月から9月にかけて、県議会、また、県内の市町村長さん方との意見交換、また、県内の松江と浜田と隠岐で実施いたしました地域広聴会ですとかパブリックコメントを通じまして、できるだけ多くの県民の皆様方からのご意見をいただけるように取り組んできたところでございます。この審議会のご議論以外に、こういった項目もございますので、そうした場でもいただいたご意見を紹介させていただくとともに、最終案に向けたご審議を本日お願いしたいと考えているところでございます。県民の皆さんに理解していただきやすく、よりよい計画としていくために、本日も率直なご意見を賜ればと思っておりますので、どうかよろしくお願いいたします。

○服部会長 どうもありがとうございました。

それでは、議事に入る前に、審議会の定足数を確認いたします。

事務局より定足数の報告をお願いいたします。

○事務局 本日は、委員の半数以上でございます13名の委員の方が現時点でご出席でございます。したがって、島根県総合開発審議会規則第4条第2項の規定により、会議が成立していることをご報告いたします。

また、島根県情報公開条例第34条により、個人情報取り扱いする場合など、特別な理由のあるものを除いて会議を公開で行うこととされておりますので、本日の会議につきましても公開とさせていただきますようよろしくお願いいたします。

○服部会長 それでは、会議次第に従いまして、議事に入りたいと思います。

前回は、事務局から素案を示していただきご議論をいただきました。本日は、この素案

から最終案を策定していくに当たって、事務局からの関連資料の説明も受けた上で議論をさせていただきたいと考えてございます。

まず、事務局から資料について説明をお願いいたします。

○事務局（資料について説明）

○服部会長 それでは、意見交換を進めていきたいと思えます。

前回、前々回とこの場では、委員の皆様方お一人ずつご意見を伺ったところでございます。今回は、もう大分まとまってきておりますし、パブコメや、市町村の公聴会等、様々な形で、県民からの意見を聞いて説明いただいたところでございます。これらを中心に、さらに特に追加すべき事柄等、特にご意見があることについて伺っていければと考えています。

意見交換の時間は80分程度を考えております。基本的に3つのパートに分けて意見を伺いたいと考えております。まず、1つ目が、計画全体についての考え方です。それから計画の本体、それから、国へ求めていく対策等と3つに分けたいと思えます。恐らく、計画の本体②、2番目についてのご意見が一番多いかと思えますので、そこに時間を多く割きたいと考えております。

それでは、ご意見を伺いたいと思えます。初めに計画全体の考え方について意見を伺います。計画の素案でいいますと17ページまでの部分となりますが、ここでのポイントは、島根が目指す将来像として「人口減少に打ち勝ち、笑顔で暮らせる島根」を維持すること、数値目標として達成年度を10年延長しつつも合計特殊出生率2.07、人口の社会移動の均衡を維持すること。それから、県民の皆様と共有していく島根のよさや魅力として、「誰もが、誰かの、たからもの。」というキャッチフレーズを県内外に発信していくこと。主にはこの3つかと思えます。

それでは、計画全体の考え方、特に素案につきましては17ページまでの部分となりますが、この部分に関しまして、ご意見のある方は挙手をしていただければ助かります。

○委員 先ほど報告があった広聴会やパブリックコメントに対して、私どもに対して県の考え方などが出されておりますが、全体的に県として、答弁じゃないですけども、出された意見に対して回答っていうような格好は考えられるものなのか。優先順位っていうか、これは参考にする、あるいは検討するなど、いろいろあると思うんですよ。それはさっき、今後出していくっていう話だったんですけど、パブリックコメントなんかについての取扱いも、そういうことを考えておられるかどうかっていうのを少しお伺いしたいことが



○丸山知事 生き方を強制してると感じるので嫌だっというご意見なんですけど、別に強制もしていませんので変えるつもりはありません。別に生き方が様々にあるということを否定しているわけでは全くありませんし、結婚をしなきゃいけないと強制していることもありませんし、子ども持たなきゃいけないとか、結婚しろとかありません。ただ、結婚をして幸せだという方もいらっしゃいます。子どもを持って幸せだっという方もいらっしゃいます。別に、それを片方じゃないといけないって、県の計画なんかで強制できるわけもありませんし、この宣言で強制してるなんてことは一切ありませんので、そういうことを言われると何も書けなくなります。だから、「いいことだ」というふうに価値観を示すのがけしからんということであれば、それは、けしからん行政をしているというふうに理解してもらえないと思います。我々は、こういうふうな社会をつくっていくんだという目標を掲げて、県民の皆さんの賛同を得ながら取り組まないといけないわけです。東京であれば放っというだけで人口も減らないし良いでしょうけど、みんなそれぞれ好きな人生生きていきたいと思いますというだけでこの社会が維持できるんだったら、こういう宣言をつくる必要もないでしょうけども、私は、今の暮らしをどうやって残していくかっという危機感の下で仕事をしなきゃいけないと思っていますんで、私はこの宣言を変えるつもりはありませんし、それがけしからんというふうにおっしゃる方がおられるのも分かります。でも、そういう方が1人おられるからこういうことをやらないというわけにはいかないってというのが島根県政として、島根県知事としての認識です。究極申し上げると、強制はしておりません。強制をするつもりもありませんし、強制する意図もありません。この計画に書いたからその生き方を強制するっという強制力もありませんので、ということです。こういうご意見があるのは分かります。ただ、こういうご意見を踏まえて、こういうイメージを一切示さないという余裕がある状況じゃないと私は考えておまして、それは賛否があろうかというふうに思いますけれども、私はそういう考え方で取り組んでいきたいということでもあります。

○服部会長 今の議論は、最初のところの「打ち勝つ」に対する丸山知事のご意見と同じ言葉かなと思って伺っておりました。結局、この意見は、「普通」って書いてあるが、では普通って何なんだと。今書いてあることと違くと普通じゃないとなってしまう、多分そういう発想で意見として出てきている。今、知事がおっしゃったように、個人個人が、人口減とかあんまり考えずに、自分のことだけを考えて生きていける社会であれば、確かにそれでよいのですけれども、ただ、島根創生計画としては、一丁目一番地に人口減をい

かに抑えていくのか、一定の人口を島根県が維持するためにはここまでやらないといけないんだ、という危機感の下でこの創生計画を策定してきていると私は理解しています。その理解の上では、やはり創生計画で述べられている社会をつくっていく必要があるわけですよね。それを審議会としてどのように考えるかだと思います。これ本当に難しいです。大原則としては個々の生き方に対して何も強制することはできないし、するつもりもないし、やっちはいけない、それは大前提です。それは知事がおっしゃった通りだと思います。でも島根県の現状を考えると、我々は何かをしていかなければいけない状況にあります。また、最初に合計特殊出生率を数値目標に挙げること自体がおかしいのではないかという意見もあります。その意見については多分、スタート地点から向きが違っているので、そこは、覚悟を決めて考えていかないと何もできなくなってしまうというもおっしゃっておりだと思います。では、審議会としてどう考えるかですが、本当にいろいろ意見がある中で、何かをしていかない限り、今のまま何もしなかったら、間違いなく島根県の人口は減り続けて、いつの日か島根県はなくなってしまうと思うんですよね。それは、避けなければいけないし、もしそうなるとしても、その時期を遅らせなければいけないことは確かなので、そのために何をするか、を決めていくことが我々のスタンスだと考えます。この審議会には知事も来られているし、県の政策企画局の方もおられて、審議会は彼らと意見交換しながら創生計画を策定しています。審議会として共通認識を持ちたいのは、初回的时候に知事がおっしゃったあの危機感を我々が共有することと、その危機を脱するために、島根県の将来像を示しながら、やはり少し強い言葉で書くことも必要ではないか、ということ。ただし、一方で、読まれて疎外感を持たれる方がいてはいけないので、書き方の配慮は必要だと思います。そこについては、県でも考えていただきたいと思いますが、基本的なスタンスは、書かれてるこの内容で良いと思っています。

○委員 実は、このパブリックコメントをずっと目を通す中で、私も実は引っかかったのが9番のところでした。私は、この方がどう気持ちを持ってここに意見を言われたか、ちょっといろいろ自分なりに解釈してみたんですけども、きっと、この笑顔あふれるしまねの暮らし宣言に反発するというようなものでは、もしかしたら、ないんではないかと。自分もそういう、そういう普通の暮らしがしたいとか、裏を返せばそういう気持ちを持っているんじゃないだろうかなというふうに理解をして、この方が分かれば、この人とじっくり話してみたいなという気持ちを持ったところです。本当に、この意見に対してはちょっと立ち止まった気がしました。多種多様な生き方があるからこそ誰もが伸びていって

ほしいし、生きることの保障もされていけばいいなと考えました。

それで、ここの、やっぱりこの文言の中で何に引っかかったかというところ、**「普通」**というところに引っかかってしまったんです。もし変えるとしたら、**「ごく普通」**というよりも何か、そんな島根の心豊かな暮らしですとか、島根を前面にもう少し出したような言葉に変えたらいいのかな、ただ単に、言葉だけの問題ではないと思います。ですから、私はこれを全然否定はしておりません。ですから、そここのところのこの**「普通」**のところの言葉をちょっと考えてみたらどうかと考えたところです。

○委員 いろんな意見はあるのは承知なんですけど、私思うに、会社だったら社長がやっていくぞって言ったら、恐らく社長が目指してる方向に多分行くっていうのが普通だと思うんですけど、恐らく県も、知事がこうやってやるぞっていう、多分、心意気みたいなのがここに書いてあるんだろうなと思って、多分、県でいう社長みたいな知事が、しっかりやるっていうんだったら、それはそういうことなんだろうなって思って私はこれを拝見していました。なので、多分、やる気がある知事がいてくれるのが多分まず大事で、それをしっかりこう何か計画として書いていかれてるっていうのがこの意味なのかなって思いました。

あともう一つ、パブコメとかなんとか、県のこととか暮らしのことに興味を持っていらっしゃる県民の方とか住民の方が多くなっているのはすごく思って、真剣にこうやって思ってくれる人が何か活動がしやすかったり、何か生きやすかったりとか、何かそういうのでいいんだろうなと思って思いました。

○委員 私も会長の言われたとおりだと思います。普通の捉え方はそれぞれ違うと思います。千差万別あってしかりだと思います。けども、この前段に書いてます家族を思い、地域にも参加する、この時代背景をいろいろどう捉えるかっていうことに関わってくる、今後はそこなんだろうと思いますけども、何かしらやっぱり生きづらかったり、住みづらかったりしてるんじゃないかなっていう、推察の域だと思いますけれども、そういったところを少しでもよくしていこうという考え方が前提にあって、この普通の考え方はそれぞれあると思いますけども、それをもっとよくしようっていうのが根本にあるんだろうというふうに思います。

もう一つは、人口減少をやっぱり放つといていいのかなっていう話だと思うんです。構ってくれるな、何も今のままでいいじゃないかというふうに思う人もいるかもしれませんが、やっぱり行政としてはそういうわけにはならない。やっぱり地域のことをしっか

り考えていく上では、どうしたらいいのかっていうのはやっぱり常に考えていくっていうのが行政の仕事だと思いますので、やっぱりその域っていうのは当然必要だと思います。

○委員 いろいろご意見聞かせていただいて、私もなるほどなと思いながら聞いていたんですけども、「これでいく」という知事の意味と、あと、「排除するつもりではない」というところの、そこが伝わっていないところがとてももったいない、残念だなと思ひまして、もう一つのメッセージの「誰もが、誰かの、たからもの。」っていうものもある中で、島根県としては、県民の皆様一人ひとりが宝物だっていう意思でもあると思ひますし、島根県に関わってくれた人、皆さんも宝物っていうような意思もあるんじゃないのかなということも考えながら、そのことと併せて、イメージとしてはこういうものを持つてるけれども、一人ひとりが宝物なんだと思つてるんですっていう島根県の意味みたいなのがうまく伝わる何かそのメッセージなのか、メッセージばかり増やしてもよくないのかなと思つたりしました。伝わってほしいところが、あと一歩っていう、もったいない、惜しい感じを受けております。

○服部会長 発信の仕方だと思います。メッセージとして創生計画に盛り込むのか、それとも、創生計画はこれでしっかり発信して、メッセージの伝え方として別の発信の方法を考えていくのか、そこは工夫だと思います。

この件については大体よろしいでしょうか。（「はい」と呼ぶ者あり）皆さん大体、共通認識いただけたと思います。このことはすごく大切なことだと思います。ありがとうございます。

○委員 全体的にはこの方向で私も賛同するところであります。人口減少の数字のところ、いろんな意見の中で、もう人口減少はやむを得ないんで、それを前提にしたことを考えるべきだという、こういったご意見も何人かからありました。ただ、これについては、私は知事さんと同じ意見で、やはり行政とすれば、ある目標を持ってそれに向かっているといけないう必要があろうかと思ひますので、結果的には人口減少はなかなか歯止めができないかもしれませんが、やはり目標としてはそういうのを掲げていくべきだろうと思つるところであります。

そうした中で、13ページにありますやはり数値目標のところでありまして、目標に掲げているのはもう、そうすべきだということではありますが、特に長期目標の2045年までに2.07という数字は、正直言って、今、足元の少子化の進展を考えると結構厳しいなと思つるところでありまして、これについて、先ほど3番目に国への要望というところにも関

連するかと思うんですけども、ここの部分は、県とか基礎自治体だけではもう対応できないレベルかなという感じがして、したがって、当面の目標の2029年、この1.63、これは県としても、あるいは我々基礎自治体としても、一緒になってこの目標に向かってやらないといけないと思っておりますが、長期目標のところについては、やはり国を挙げて、経済的な問題とか、あるいは、いろんな社会的な意識の問題とかいろんなことを、国を挙げて取り組んでいただかないといけない。この3番目の国への要望のところに関連するかと思いますけども、その辺をしっかりと言い込まないといけないのかなと思うところがございます。

○丸山知事 数字の目標、素案の13ページを見ると、今の足元の状況から見るとすごく高い目標に見えるんですけど、次のページめくっていただきますと、この高い目標を実現したとしても島根県の人口の均衡点はもう36万人、これが目標が高いって言えるのか。要するに、人口減少、これは日本全体が若干後ろスライドするだけです。それだけ深刻なんです。人口が半分になっていくっていうこと、これだけやってもですよ。この目標を実現できるのかっていうことをご心配される数字を実現したとしても、ご指摘にもあるように、人口減少は当面止まらない。なぜならば、2.07っていうのを何十年も続けないと人口は下げ止まらない、そういう目標なので、私、そういうことに力を割くよりも、今いる人たちのウェルビーイングのためにやったほうがいいんじゃないかっていう議論っていうのを県議会でもよくいただくんです。でも、それって私は、どっかで下げ止まって反転するんじゃないかっていう、根拠なき楽観論に基づいてると思っていて、社会の構造が変わらなければ、要するに何かというと、今は子どもを普通になべてみると、夫婦2人で子ども2人を持つっていうふうにする気になれない社会ってことです。だから、結婚されない方もおられますから、なべてですよ、なべて。だから、結婚されない方もおられるし、子どもはつukらない、またはできない方もおられるから、そういう子どもをもたれる方という2人以上つukられないと人口維持できませんよね。でも、そういうなべてみると、そういう数字が実現できないから人口は減っていく、それは、その母数が減っていくと1だったのが2になるってなるかといったらならないと思います、社会構造が変わらなければ。子どもをもたって大変なだけだからとかっていう状況が続いたらずっと続くんです。

実際のところ韓国の合計特殊出生率は0.72なんです。日本の平均は今1.2だったと思いますけど、それよりも0.5ポイント低いです。ソウルは0.55でしょう、たしか釜山は0.66です。どっかで下げ止まるだろうと思っておりますけど、日本と同じ、い



わゆる儒教圏と言われるような、天候も似ている東アジアの国で、一極集中がより進んでいるという国でそうなっているわけなので、正直厳しいんですけど、人口が減り続けるっていうことの恐ろしさを甘く見ている、どこかで下げ止まってくれるだろうと思っているから、そんな無理しなくてもってなるんでしょうけど、合計特殊出生率0.55って、人口が4分の1になっていく世界ですからね。男女2人の中から0.5人しか子どもが生まれなくて、男女4人の中から子どもが1人しか産まれない、人口が4分の1になっていく社会が維持できるわけがないし、国が存続できるわけがないと思うんです。そもそも、そういう社会が、そういう状況が続いて社会が成立しないと思うんです。個人が1人で生きていく、1人で一生生きていくっていう社会で、それを社会だと定義してそれぞれ人生を生きていきましょうという社会が成立すれば、それはそれで社会成立するかもしれないけど、助け合うとか、コミュニティーをつくって共同作業していくっていうことを前提とした社会を構成するっていうことを考えたら、人口が4分の1になっていくとか2分の1になっていくっていう社会っていうのは、もうサステナビリティないわけです。

私は、地球温暖化のサステナビリティだけ注目されていますけど、人間の社会のサステナビリティがなくなっているんですよ。気温とか天候を気にする前に、我々の種が、この日本、日本だって1.2ですから半分です。日本社会のサステナビリティ、日本人のサステナビリティがないっていう数字が出ているのに、何でこんな日本社会が楽観的にいられるのかっていうのが私はどちらかというと不思議なぐらいで、危機感が足りないんです、政府も、日本社会も。だからそういう意味で、これは政府だけじゃないと思うんですけど、経済界も含めて認識を変えないと、私はグローバル企業の経営者が、グローバル企業の経営者がそう考えるのは、私はありだと思えます。いざとなったら別に、うちの会社は別に日本に依存していませんから、日本という、自分の本社のある国の経済規模がいかに小さくなっちゃったって、例えばルクセンブルグに本社を置いている国際企業と同じで、別にルクセンブルグでそんな大きな商売しなくたって世界で稼ぐからいいですっていう企業だったら、それでいいと思います。ただ、大企業だってほとんどの大企業が国内消費で飯食ってるところなのに、経済界ですら自分たちのメインマーケットが半分になっていくっていうことを何か、何の危機感もなくぼうっと見ているっていうのってちょっと異常だと、すみません、私ははっきり申し上げると、本当に目先のことしか考えていない、自分が社長でいる5年か10年先ぐらいまでしか見てないからこんなことになるんだろうと私は思いますけど、50年後に会社なんか残ってないみたいな状況になっているのに、まあ仕方

ないよねっていうふうに諦めているのが不思議なので、そういう認識を変えてもらわないといけない、変えていかなきゃいけないと私は思っています、それで今回こういう、最後の項目を付け足していただいています。私は本当に、CO<sub>2</sub>のこと気にする前に人間のこと気にしろよって感じです。よほど日本人のサステナビリティがなくなっているんですよ、日本人減りますよ、日本人いなくなりますよ、ワングェネレーションで0.5ですからね、0.5の何剩がかかっていったらもうなくなっていくます。1剩がもう半分でしょう。2剩が4分の1、3剩が8分の1、もうそういうことなので、何ていうか、日本という社会における人間のサステナビリティをどうするんですか、日本という社会が持続可能性の全くない数字が出ていますけど、どうしていくんですかっていうこと。CO<sub>2</sub>を気にするぐらいだったらそっちを気にしましょうっていうそういう運動をしていかなきゃいけないんだろうなというふうに思っています、皆様のお力添えをいただきながらそういう訴えをしていきたいと。

出生率1.2とかっていう数字って、本当に日本社会終わりって言われているのと同じなんですよ。かつて島根県も合計特殊出生率1.7っていう時代があったんです、つい最近ですよ。1.78ですかね、2015年なので、平成27年ですから10年前か、大体。私は、この時代っていうのは何かっていうと、多分、子育てしている人たちが「子育てしていると大変だけど、まあ何とかかなるのよ」って、2人、3人子どもさんがいる人たちが言っていた時代だったと思うんです。全然余裕です、子どもいるほうが生活楽ですっていう人はいなかったと思います。でも、そういう、子どもが2人、3人いる家庭のお母さんとかお父さんが、まあ楽じゃないけど何とかかなるよって言ってくれているから、そういう選択をするかどうかって考える人たちが、「あっ、大丈夫そうだな」と思ってそういう選択をしてくれたんだと思いますけど、今は多分、「いや大変よ、2人も3人もって大変よ」っていうふうになっちゃったから。やっている方々がそう言っていると、同じ選択をしていこうっていう人たちが減っていくんだと思うんです。なのでやっぱり、その状況を変えていかないと、何か、若い人たちのやる気がなくなっているとかっていう話じゃなくて、もう国民負担率がすごく上がっているんですから。私が長男を持ったときが平成10年でした。そのときの国民負担率、数字を遡ってみると36とか7ぐらいです。今はもう50近いんですから。10ポイントぐらい国民負担率が上がっているんです。国民負担率が上がっていくってことは、税金とか社会保険料以外の負担が10ポイント上がっているわけなので、そりゃ同じ子育てする余力があるわけがないわけですよ。なので教育の無

償化とか、今まで有償でやっていたものを無償化していくっていう形で、国民負担が上がるけど無償化していくっていう形で、そういう施策が進んでいるんだと思いますけど、医療の関係も今回、市長さん、町長さん方のご理解をいただいて、4月から高校生まで上げますが、そういうことをしていかないと、やっぱり、楽じゃないけど何とかなるもんよと言ってもらえるような環境に戻していかないと、やっぱりこういう数字になっていかない。10年前1.78あったんです。だから、10年間にもものすごく悪化しているんですよ、すさまじく悪化している。それを戻していくっていう、昔の時代にそのまま時代を戻すわけにはいきませんが、やっぱりこの間で悪化したものを直していく取組をしていくっていうふうに、それは意図的にやらないと、やっぱりいけないんだと思って、10年前は、今1.46だから0.32ポイント高かったんですね。そういうことなので、こんな目標達成できんのかって言われるんですけど、この目標を達成してもなお人口40万切っているという低い目標だとも言える、これは、もう既にビルトインされてることなので、それはそれとして、人口減少を前提とした対策っていうのを同時に講じていながら、人が減っていく中でどうやって公共交通を維持していくかっていう工夫、人が減る前提で、2.07を目指すから人口が減らないって、行政がやるんじゃないで、2.07を目指してもいきますし、目指して行って実現したとしても人口まだ減り続けるので、人口が減り続ける中でどうやって様々なサービスを維持していくかってことを両面でやっていくっていうことでもあります。

大変難しい話なんですけど、やっぱり東京におられると、実際人口が減ってないので、人口は減らない、地価は上がる、ビルはできる、マンション価格は1億円超える、人口減少ってどこ吹く風だという話なので、政策決定をされたり経営判断をされる人たちは全く人口減少なんて実感してないんだと思いますけど、もう数字で出ていますから、客観的な統計データで。なので、これは日本社会の持続可能性がもうなくなっているっていう状況を、私は島根県の話だけではなくて日本全体が1.2ですから。何度か申し上げましたけど、1.2という数字は5年前の東京の数字なんです。5年前の全国最低の都道府県の出生率と同じになっています、全国平均の数字が著しく悪化している。なので、これは日本社会全体の話として、これだけ人口、出生数もそうなんですけども出生率も含めて、地域性なく減り続けているっていうことなので社会全体、もちろん経済の仕組みも含めて、政治とか行政の仕組みも含めて、全体として直してもらわなきゃいけないっていうことで、自治体側の努力が足りないとかっていう話じゃなくって、日本全体の仕組みを変えてもら

わないと直っていかないということで、そういう是正も含めて求めていきたいと思います。

○委員 少子化に対する危機感っていうのは、私も知事さんと全く同じ思いをしております。そういう意味でも、ちょうど石破総理が誕生したわけでありますが、8年前ですかね、初代地方創生担当大臣になられたときに、この少子化は静かなる有事だという言葉が使われて、このまま少子化がいけば、日本の形がだんだんだんだんなくなっていくという、そういったこともおっしゃりました。そういう意味では、この少子化の問題、当然、県としてはもうこの目標に向かって頑張ろうというのは当たり前だと思うんですけども、やはり国を挙げて、ぜひ知事会、それから市長会も今総勢動いておりますけれども、よろしく願いをいたします。

○服部会長 ほかに何かありますか。全体計画についてはよろしいでしょうか。ありがとうございました。

それでは、続きまして、素案の本体についてですけれども、素案でいいますと18ページから101ページまでの部分となります。8月にもご意見を伺った部分ではありますが、今回の事務局の説明などを受け、改めて委員の皆様からご意見等ありましたら伺いたいと思います。

○委員 知事の強い決意と危機感は、多分、共有するところなので、この真ん中部分も審議を深めていけたらいいかなというふうに聞いてて思いました。

この計画では、文化芸術の振興とか、それから文化財の保存というところは盛り込まれているんですけども、お祭りとか、各地域の文化を次の世代につなげていくことっていうことが、本当に地域を守っていくことなんだというふうに感じています。今週末、松江では、藝行列が行われておられますけど、昨夜、松江市内で車で走っていると、各地で練習する音が聞こえてきました。そういうお祭りがあるからこそ地域に人が帰ってくるとか、このお祭りのある時期だけは帰ってこようとか、そういうことで人流が生まれていくことだと思うので、お祭りっていうのをすごく大切にしていくことは重要なんじゃないかなというふうに思っています。お祭りが地域でこう、文化活動をしている人たちの発表の場になったりして、それがまた地域を振興するっていうところもありますので、市町村レベルで取り組まれていることも多いと思いますけれども、県としても、地域のお祭りとかをはじめ、地域の文化の重要性についてご認識をいただければ幸いです。

伝統文化に関しても同様で、先日、青森市に視察に行かせていただいて、移住者の方と意見交換をさせていただきました。そのときに、なぜ青森市に決めたのかっていう理由を

聞くと、住みやすさ、豊かな食、そして、ねぶた、つまり伝統文化を挙げられている人が多かったです。島根は住みやすさを示すデータっていうのは多くて、豊かな食文化もあって、神楽をはじめ伝統文化も守り続けてきた、そういう中で伝統文化をつないでいくこともまた地域を守っていくためには重要な点であると思いますので、そういう観点からも計画をつくれるといいのかなというふうに思いました。

○委員 多分、島根県の人口減少のボトルネックっていうのは、石見部のほうにあるのかなと思っています。これ1回目のときもちょっとご意見申し上げたんですけど、ぜひ石見部のほうの人口減少への対策ですとか、あと、石見部の主要な交通網って、萩・石見空港だと私は思ってるんですけど、萩・石見空港の利用促進とかを、例えばP 4 3ページのところに、萩・石見空港って書いてあるのって、政策コンテストの発着枠継続しか書いてなくって、そうじゃなくって、もっとこういろんなところから来ていただいたりとかすることを、町を挙げて頑張っていたりはするんです。なんですけど、まだまだ足りないところとかあったりするので、ぜひこの辺りとかにも、萩・石見空港に対して書いてくださったりするとありがたいなっていうのと、あと、多分、益田の周りを見てみると、結構、子ども3人とか産んでいる方が結構多くて、東京に先日行ったら、若い女性、30代の女性が島根県に移住を考えているって言っていて、どこに行くのって言ったら石見部のほうを考えているって言っていたんです。松江とか出雲は結構都市部と近いような環境だから、せっかく行くんだったら、田舎のようなところに行きたいって言ってらっしゃったんです。なので、ぜひIターン、Uターンも石見部のほうに若い女性とかが来てもらうようなこととか、そういうことを一生懸命私たちもやっていこうとは思っていますが、県のほうもやっていただけるとすごくありがたいなと思います。

あと、最後に、P 1 0 5ページに書いてあるように、ぜひ都市部からやっぱり人口引張ってこないといけないと私も思っていて、何とかUターン、Iターンとか、その辺りをしっかり引き入れながら人口減少、どんどんどん出生率が上がっていくような、間をこう埋めるようなことができればいいなと思って、ちょっと私たちも一生懸命企業として頑張っていこうと思っていますので、県の方もぜひ石見部をしっかり見ていただけるとうれしいなと思います。

○委員 人口減少というところに関して、減少する中で何とかいい地域をつくっていくっていう中での、「島根を愛する人づくり」っていうのが大事だろうなというふうに思っているんですけども、ここにそれぞれ4項目が挙がっています、学校と地域の協働による

人づくり、地域で活躍する人づくり、地域を担う人づくり、あと、国スポ・全スポに向けた人づくりというふうになっているんですけども、これらの人づくりしたところの人材の好循環っていうようなところっていうのが、少し入らないかなというのを思いました。私自身、地域でスポーツとか文化芸術のほうも楽しみながらやっていますけれども、そのことがまちづくりとしても役立つようにやっているつもりだったりする中で、一粒で二度おいしい、三度おいしいじゃないですけども、一人の人が好きなことをやっている、それがまちづくりのほうにも役立っている、まちづくりでやろうとしていることが誰かがやりたいことを応援することにもなっているっていうような、一つの人、一つのことが幾つかの効果がこう見えやすくなるような好循環を出していくっていう、うまく言えてなく申し訳ないんですけども、人づくりした、それがそれぞれの人ではなくて、それらが好循環で動いていくつながりづくりっていうようなところも、もう少し強調できるとよいなというふうに思いました。

○委員 今日皆さんのコメント、パブリックコメントを見ていて、17ページに女性活躍の推進のことがちょっと触れてありまして、なかなかこう女性の何かこう意識バイアスとかの中で活躍しづらい人もいる、みたいなことが書いてあるのかなと思って見ておりまして、ただ、世の中の流れる的には、女性活躍っていうのすごい今言われているんだと思います。この58ページにも女性活躍の推進っていうのであらゆる分野での活躍推進ということがうたってあって、私、あんまり女性だからとか、何々だからというよりも、誰もがこう活躍できるステージになっていけば一番いいんだろうなというふうに思いながらいるんですが、ちょっと何が言いたいかという、今日ここに、県側にいらっしゃる方が全員男性であるということが、若干気になるなと思ってます。もちろん世の中の的にもみんなが活躍できるステージになっていく、そういう目指す中で、何か、この島根県さんのこの中にもやっぱりそういった、何か本当、男性とか女性とか言うのは嫌なんですけど、女性の方もいらっしゃって一緒に審議ができるようになっていくともっといいんだろうなっていうことをちょっと思ったので、ここに、58ページに書いてあることとかは、もう全然もうそのとおりで、みんなが活躍できるだったりとか、ただ、どうしてもこのコメントの中にあるような、ジェンダーギャップとか、バイアスとか、そういったものがまだまだあって、活躍しづらいと思っている方とか、本当はもっと声上げたいけどできないんだろうなみたいな方もいらっしゃるのかなと思うので、何か先導切って、島根県さんの中にも前に出てこられる方が増えてきたらいいなというふうに思いました。

○委員 先ほど、知事さんの熱弁を伺いまして、なるほどと思ったんですが、いかんせん私たち委員の中には、もう産んで育てるという年代を卒業した人も多いですよね。今から産もうかなっていう人の意見というのは、どっかで聞いていただきたいと思います。多分、経済だけじゃないはずですよ。何で結婚しない男性が多いかという中で、縛られたくないとか、小遣いを取られるから結婚したくないとかいうような意見もありましたが、それも本心だと思います。ですから、表面だけで、お金を出せば増えるだろうではなしに、本当に今から産んでいただく人がなぜ産まないのかという意見がちょっと欲しいなと思いました。

それと、夫婦二人で絶対子どもを育てるという考えは、もう外してもいいんじゃないかだと思います。お一人でも大丈夫です。そういう世界にならないと私はいけないと思います。ある国に私の子どもがおるんですけど、自由な国ですから、お母さんが一人で育てる、お父さんが一人で育てるという人が多いんですが、どこ行っても子どもが遊ぶ公園がいっぱいあります。子どもを預ける場所も多くあります。日本人が昔から大事にしていた夫婦で子どもを育てるという考えはその国にはもうないんですよ。ですから、やっぱり、誰もがってというような言葉がよく入っていますけれども、どういう環境であろうともお隣のおばちゃんが隣の子どもの見てあげるってというような環境があるような島根であってほしいなど私は感じております。

○委員 先ほどの知事のご決意、私も聞いていて大変感銘いたしました。私たちも地場産業である林業を成長させることが人口対策につながるものと信じて、いろいろ取り組んでいるところでございます。その中で、林業について、大きな課題としては担い手の確保、それから、書いていただきますように収益力の向上、新しい技術を、ICT等を活用した生産性の向上ということを挙げておられまして、この取組については全く賛同するものがございます。ただ、その中であって、近年の物価高とか人件費上昇に伴って、いろいろな収益モデルというものが見直す必要があると思っております。そういったことも事業レベルのほうでしっかり考えていただけたらと思っております。

それから、担い手のほうでは、前回の審議会のところで外国人材のことについてちょっと述べさせていただきましたけども、例えばこの素案の中で、人材の確保・育成については、28ページのところで全体的な取組について書いていただいてまして、具体的に最後のところで、外国人材に対しても関係づくりを支援しますということになっておりますけれども、林業のところでは、そこまで突っ込んだ表現はないんですけれども、これは、林

業の分野と企業等の分野で取り組み方が違うということかもしれませんが、ある程度、この辺は、同じ担い手対策としてできれば足並みをそろえたようなことができたらいいなというふうに思っております。

それから、安全安心な県土づくりということで、やはり最近の能登半島での大雨災害がございました。島根県でも日御碕で道路の崩落等があったわけですがけれども、毎年、非常に大きな災害が日本各地で発生しておりまして、そういったことに対して、やはり、県民一人ひとりが災害に対する知識というのもしっかり持って、このぐらいの雨が降ったらこういうことが起こるんだ、そういったような認識が深まるような対策をぜひ進めていただきたいと思います。もちろん防災対策の中で、そういったところも書いていただいておりますけども、特にそういった状況を見て、若い人たちが授業の中で災害について学ぶような場があれば、もっとあればいいかなというふうに感じたところでございます。

○服部会長 私からも一言。女性活躍の話ですが、先ほどの少子化の話とも絡みますが、結婚してお一人子どもが産まれる。そうして子育てを実際にしてみると結構やっぱり厳しい状況になって、2人目は無理だなと諦めてしまうような場合も多いかと思えます。マッチングして結婚の機会を増やすことも大切ですが、子どもを産みたいと思っているご夫婦に、2人、3人と子供が持てる環境を作っていくことも重要と思えます。子育て世代に向けた支援の充実について59ページにあるのですが、親が働く環境の改善が大事だと思います。お子様がいて共稼ぎだったら子供を保育園に預けます。でも、子どもはよく病気になったり熱を出したりします。そのときにどうするのか、という話になる。先ほどの賀戸委員の話でもそうですが、例えばシングルマザー、シングルファーザーの方が育てているときにお子様がいかにそういう状態になったら仕事を休まざるを得なくなります。病気になった子を預かってくれる施設を造ることも大切ですが、これもなかなか容易ではありません。そうすると企業とか事業場が、そういうことは当然、起こり得るよねってということで、そのような事態に対応できる働く環境になってくれれば、よいと思うのですが。行政が直接何かをするということではない気もしますが、そういう企業風土をつくっていくためのサポートをして頂きたいと思えます。2人、3人目とお子さんを持ちたいご夫婦がおられたらそれが実現できるためのサポートをする、もちろんシングルの方も含めてですが、そういうことを考えて頂きたいと思えました。子育て世代に向けた支援の充実については少し踏み込んで今後、具体的な対策を立案していくときに検討頂きたいと思えます。

○委員 今のお話にかけてのところなんですけれども、パブリックコメントにもあったと



思うんですけれども、移住者の中でよく言われるのが、夫婦で来ているので、地元の方と比べておじいちゃん、おばあちゃんに預けるとかができないっていうことがすごく子育ての負担になってたりっていうことがあって、そういうところの支援があるとすごくいいのになっていうことを聞いたりもします。

あと、企業だったり勤め先の支援っていうことも大事だと思うんですけれども、私もですが、個人事業主っていう形で仕事する人、仕事の仕方っていうのも大分変わってきていて、個人事業主で仕事をしているような人たちっていうのも増えていると。例えば産休、育休なんていうものはないので、それが仕事を、自分が仕事を休めないっていうことが産めないっていうことにもなってくる。実際、自分がそういうふうな人生、過ごしてきたしまった団塊ジュニア世代だっていうところもあって、これからの人たちっていうのが仕事の仕方が変わって、個人で仕事をしていても、しばらく休んでも収入が得られるような、女性が安心して出産できるような環境ってどうしたらできるのかなっていうことは考えるときがあります。そういったところを安心して産める環境づくりっていうのが本当に大事だっていうのと、あと、小さいときっていうのがよく課題として出るんですけれども、友人、知人たちを見ていると、中高生になったときの部活動だったりとか、いろいろな活動をするときの送り迎えの負担っていうのも結構あって、1人だからいいけど、2人だったりするとしきれないっていう。小さいときだけではない中高生、そして大人になる手前のところでの学費だったりっていう、いろんな年代での負担感っていうのをもう少し精査しながら具体の対策が出てくると、アクションプランなのかもしれないですけど、すごくいいなと、伝わるんじゃないかなと思いました。

○委員 私は、子育て支援のところをもっと企業、それから地域がもっと応援する体制っていうのは必要だなと思っております。島根県におかれましても子育て支援を応援する企業さんを表彰する制度もお持ちですし、また、浜田市においても3年前にそういった表彰制度も設けております。まだまだそういった企業が子育て家庭を応援しようという、例えば不妊治療するときには1週間ぐらい休まないといけないとか、いろんなことがありまして、それにもっと企業もしっかり応援する、それから子どもが風邪ひいた、熱が出たときにすぐ休めるようなそういった、企業も一生懸命それを応援するということ呼びかける必要はあるんだろうなと思います。

それから、地域のところは、本当は理想系なんですけど、例えば中山間地であれば、近所に住んでらっしゃるおじいちゃん、おばあちゃんが子育てと一緒に、面倒見てくださ

るということはあるんですけど、意外と都市部というか、浜田市内でもアパートで暮らしてらっしゃるような方は、なかなか周りの人たちが応援するっていう体制がないので、ここをどうするのかなと思うんですけど、地域みんなで子育てを応援するっていうのが理想なんですけどもね。地域っていうのは、それが中山間地とか、あるいは都市化が進んでるところで違ってくるかもしれませんが、理想的には地域みんなで応援しようよというメッセージは出してもいいのかなと思うところでもあります。ということで、企業とか地域がみんなで支え合いましょう、応援しましょうという、こういうメッセージはちょっと強くは申し上げたほうがいいのかなというふうに感じるところでございます。

○服部会長 ありがとうございます。支援を受けたい方の事情もケース・バイ・ケースであり、それからサポートする側もいろいろな場合があるので、総合的な対策というより個々の事情に合わせた支援が必要なのかと思います。すごく難しい話かとは思いつつも、どんどん踏み込んでいく必要があるのかな、と今皆さんのお話聞いていて思いました。ありがとうございます。

○委員 その関連で、浜田市の事業かは不明なのですが、子育て中の両親が働きやすい会社を紹介し応援する事業があります。その事業所を浜田市女性ネットワークの会員がおじやまして社長、女性従業員の方と意見交換会を開かせていただきます。

現在1社終わったところですがお伺いした会社は社長さんがとても子育て世代に理解のある方で、急に子どもが病気になりどこにも預かっていただけるところがない場合は会社に連れてきて社長室で子どもを見ながら仕事ができるとか、早く帰った子どもを事務所に置いていただけるとか子育てに会社全体で協力しておられる会社でした。事務所の雰囲気は明るく、男女問わずいきいきと明るい雰囲気で仕事をされていました。

どこの会社でも通用することではないと思いますが、社長さんの子育てに対して温かい理解と社員のゆとりのある態度があれば子育てが楽になると思いました。

次回は2社目を訪問させていただきますがその会社も女性が活躍されており今から楽しみにしているところです。

○委員 私、農業のことしか喋れないんですけども、いろいろ人口減少だとかということのを少し大きなくくりで少しお話しさせていただきたいと思います、例えを申し上げながら。農業分野では、農事組合法人という会社化ということで約20年前から国の支援を受けながら集落へ大規模農業を進めるために、私たちJAも行政の皆さんと一緒に取り組んでいました。賛否両論があります。集落は守れていますが、法人という1つの会社化したこと

によりまして後継者がなかなか育たない状況が生まれています。家族農業であれば、お父さんお母さんがいて、その子どもがいて後継者という形で日本の国は代々つながってききましたが、大規模農業を進めるために農事組合法人であるとか、農業会社を一生懸命つくってきたために、なかなか組織としてその組織を次世代にバトンタッチするということが今、非常に難しい島根県内の農業法人がたくさんあります。私の地元にあります農業法人の例えですが、集落の水田、圃場は守られています。ですが、残念ながら後継者は育てられない環境にあります。これはなぜかと申しますと、法人の構成員が作業を行いますけども、自分たちの息子や娘といった子どもたちを積極的に農業現場に活用できてない。それ以上に、先ほど男性、女性というお話がありましたが、家族労働者であった奥様方と呼ばれる女性層がなかなか農事組合法人で作業ができない環境をつくってしまった。私の関係する法人ですよ。ですので、農産加工だとかいろいろ私も提案して、豆腐作ってくださいとか、おすし作ってくださいということで素材提供しながらやりましたけども、やってきたんですけども、だんだん高齢化して行って、それも大変だよねってということで後がつながっておりません。なぜこんなことを申し上げるかという、これから少子高齢化、人口減少というものを考えたときに、県の考えられる、あるいは市町村の考えられる様々な組織体っていうのは、将来を考えてつくっていかなければいけないなという。じゃあ、対案として何かあるかと問われると、なかなかないんですけども、女性の居場所、男性の居場所、それらを全て包含したような形、若い世代も参加できるような組織っていうのをやはり我々先人と呼ばれる50年、60年生きてきた人間が考えて、次世代へつないでいってあげないといけないなと。今まさにここ20年、30年、中堅世代として昭和から平成、令和と私、歩んできたんですけども、少し反省をしております。JAとしても家族農業というのを否定はしてきませんでしたけども、大規模農業に足を踏み入れてそういう方向性で島根県の農業を進めてきたというのは、絶対的にこれが成功であったかどうかっていうのは今まさに検証しなければいけないなという思いを持っておりますので、こういう話をさせていただきます。

○委員 先ほど知事さんの人口減少のお話を聞いて本当に危機感を感じました。それで、これからの島根県は老人が多い県なんですけども、これから人口を増やすためにはやはり今、中学生、高校生、大学生にやっぱりこの危機感をもっと訴えていくべきではないかなと感じました。社会教育をしていただき、せっかくこうしていいものが出来上がる中で、やっぱりいろんな話をしていくことが大切ではないかなと感じました。

それと、子どもさんを産みにくいというか、1人しか産まないというところに今すごくこの10年間で核家族化がすごく増えていて、皆さんいろいろな家を建てられる中で、金融機関等も特にこの子育て中心の家族には金利を本当は下げていただくようなまた考え方も、こちらのやっぱり経済のほうで取り入れていただけたらなと思って、ちょっと感じました。

○服部会長 さて、意見はまだあるかと思えますけれども、時間に限りがございます。特にどうしてもこれだけはということがありましたらお願いしたいと思えます。よろしいでしょうか。どうもありがとうございます。

では、次に進めたいと思えます。次は国へ求めていく対策についてです。計画の素案ですと102ページ以降の部分でございます。前回でも説明いただきましたように、第2期の計画で新たに追加された部分で、一地方では解決することができない日本社会、日本経済全体の課題の対策を国に求めていくということでございます。先ほど議論がありましたように、少子化対策についてのご意見、また、7月4日には、賃上げについて国に要求してほしいという話もございました。こうした意見を実現していくためにも重要な部分だと思います。特に国に対して求めていくことについてご意見ありましたらお願いいたします。

○委員 ありがとうございます。地方創生というのが始まって10年ぐらいになりますけれど、石破さんが総理になられて、地方創生でやっていくと何かどうしても人口減少とか、出生率の低下を地方に責任転嫁されているんじゃないかと感じるところがあります。どうしてもここは国が責任を持ってやっていかなければ、県としてやれることも限られていると思うので、知事の決意、先ほど伺いましたので、しっかりとここは国に求めていっていただきたいなというのを改めて言わせていただきたいと思えます。

○委員 本当に人口が減るって問題ですのでね、ここにあるように、島根を創る人をふやすってことが一番大事なんです。だから、いろんな場面で市の、国の、そして県が今、すばらしいキャッチフレーズで出ております。それは何かっていったら「誰もが、誰かの、たからもの。」これすばらしいんですよ。だから私、くにびき学園にもこれをざっと言って、みんなあなたが宝物になればもっと増えるんだっていう話を随分させていただいたんです。その中で、私、やはり島根を創る人をふやすってことが大事なんじゃないか。ただ、言うても人口が減る、あるいは県がされるんでしょう。いやいや、市がされるんでしょっていうだけではどうにもならないと思えます。それで、今、大変あれなんです。福祉っていうのは、我々は障がい者の福祉は自立のためにどんどん一般就労ができ

る状態の人、それからちょっと集まって自分だけで、能力だけで給料が年金とプラスすれば1人のグループホームで生活できるとか、いろんなスタイルの人がいらっしゃるんですよ。そうなってくると、せつかく国からいただいとるんだから、この福祉をうまく使うべきじゃないかと私は思うんです。長年いつも思っているんですが、例えば今、私のところの金城町では保育園から子どもがいなくなって閉まってしまったと。だから、保育園に勤めていた栄養士がうちのグループホームの世話人に雇ってくれとかっていつて結構来られるんです。そうなってくると、じゃあ、子どももおるんですよ。じゃあ、福祉が今、私たちが考えとるのは、福祉をもっと地域おこし、それから地域活性化、共生社会をつくる、福祉と共生とが抱き合わせしながら、そこにすばらしい共生世界の花が咲くんじゃないかなって思います。さっき言われた子育ても、そこに集まってくるとか老人も来る、そして若者も来る、子どもも来る、そういうふうな遊びながらでもやる。いや、今日は家に帰るの嫌だからちょっと泊めてよ、いいですよってお風呂へ入る。それで、街のど真ん中だったら、通ってきたけど帰るのもいいよ、ほいじゃあ、家に送っていつてあげます、じゃあ、家で寝巻きを着たまんま送ってあげます。朝はうちの障がいの人たちがヘルプと一緒に迎えに行つて、お年寄りが来て。そこへ大学生やいろんなもんも交じり合つていく、何かそういう共生社会を、面白いものをつくつていけば、人口が少ない、だから島根は云々じゃなくて、逆に障がいのある人も含めてまちづくり、まちおこし、それから島根づくりをやっていくと、そこはすばらしいね、じゃあ、行こうつていうんで人口が増えてくるんじゃないかなつていうように、何か仕掛けを上手く、ぜひいい意味での共生社会を、知事さんが国に言つて、しっかりお金をもろうてきてくださつて、それで感謝状を知事さんと一緒に、私、感謝状をもらいに行けばええんかなつていつてちょっと夢を語りながら、やっぱり夢を現実にする、これがまちをおこす一番大事な根っこなんじゃないかなと思いますので、農業もしかりですが、いろいろ頑張りましょう、知恵があるんですから、みんな。その知恵を100%出して、そこへ行政が応援してくださるとか、それから国が応援してくださるとかやらんと、みんな国だ県だ、いや、誰つていうとこれはもう行き詰まつて駄目なほうになると思いますので、ぜひここを前面に出して話をしたいなと思つました。

○委員 都市部から地方への人口移動を促進するという趣旨で地域おこし協力隊の制度があるんですけども、協力隊移住者で出産つていうところと絡めてのところなんですけれども、今、協力隊制度で隊員さんが妊娠された場合つていうのは、活動の中断期間が認められているんですね。3年任期のうちの例えば1年間までの活動中断期間つていうのが認

められていて、産休・育休の後、戻ってこられた後にまた続けて隊員として活動できるっていうのもあるんですけども、産休・育休期間中の手当っていうのがないという状態っていうのが、ずっと移住していいご縁ができてなるけれども、経済的にかなり厳しいっていうことになることがあって、県側から国へ、制度でせつかく人口移動をするっていうところを応援しているわけですから、さらにその人たちが出産したり子育てしやすいようにっていうような応援までできるような制度の改善みたいなのを求めているといいのかなというのをちょっと今日の移住者の子育てっていうことともかけて思いまして、それでちょっと迷ったんですけども、言わせてもらいました。自治体側としては特別交付税措置で出した分は入ってくるということで、島根県、250人以上の隊員さんがおられる中なんですけれども、隊員さん同士の結婚っていうのもやっぱり発生したりしていて、来られた方がまた地元の方と結婚するっていうことなんかもいっぱい起きている中で、その人たちの出産・子育ても応援できるような制度に国のほうがブラッシュアップしてくれるようにと県から働きかけていただけるといいなと思いました。

○委員 国に対してです。先ほど少子化のところはぜひ知事会、市長会、一緒になって国に対して要望していきたいと思っておりますが、103ページに将来不安という言葉がありまして、やはりこの将来不安っていうのが実は一番大きな課題になっているのかなと思っております。ここの文章の中見ると、結婚後の生活資金とか、いろんなデータを見ますと、やはり教育費だとか、子どもを育てられるだろうか、子どもを高校まで大学までちゃんと行かせられるだろうかという、こういったことも含めた将来不安ってのがあって、実はこの教育費をみんなで面倒見よう、国が面倒見ようというところまで行くと膨大な国の予算が必要になってきますんで、なかなか難しいところではあるんですが、やはり将来不安の一つの要素としてこういった子どもの教育費とか、そういうこともなかなかこれを県でやるの難しいですかね。市長会でもこの議論になってくると各論までなかなか踏み込めなくて、安定的な目的財源を確保しようみたいなちょっと抽象的な言い方になっちゃうんですけども、本当はこの将来不安の中身をもうちょっと、こうすれば少しでも不安が解消するということを言ってあげたほうが本当はいいんだろうなと。なかなか難しいところではあります。ちょっとそこの辺を、県でどこまで言えるかっていうのはあると思うんですけど。

○服部会長 高等教育、大学の学費を誰が負担するかについては今、大きな問題になっていて、文科省でも議論しています。授業料が平準より高い国立大学もありますし、一方、

公立大学では一部の裕福な自治体の公立大学が無償化することもあり、若干議論が整理できていない状況です。このような状況で難しいところではありますが、次世代の不安を減らす意味からも国へ要求することは十分あり得るかと思えます。

○委員 あと、給付型の奨学金を充実させるとかいうことはあろうかと思えます。なかなか難しいテーマだろうと思えますけど。

○丸山知事 現状で言うと、高等教育を公費負担するというのは、なかなか実際は行かない人もいる中で難しいかなと私はちょっと思うんですね。一部関西のほうで自分のところがつくってる大学だけ無償化するって、理屈はよく分かんないですよ。だから、同じ大学教育でお金がかかるのに、自分の県の県立は自分のところの運営してる大学へ入ったら無償とかって意味分かんないですよ。同じような勉強するほかの大学行ったら何の支援もしないって、全く公平じゃないんですよ、やり方が。全く理解できない。もし支援するだったらそのお金をなべて同じような進路に行く人に1万円ずつでも分けて渡すのが公平だと思うので、何か自分のところが作っているから自分のところだけに入る人は無償化するっていうのはちょっと考えられない。だから、政策論としてちょっと県民の理解が得られないんだと私は思っていますし、私は将来不安ってどっちかっていうと、大学を卒業してもそれが元が取れるようなところ、そういう進路選択が保障されているかどうか分からないってところが最大の将来不安じゃないかと、私はどっちかというところだと思います。大学行ってお金がかかります、特に親からすると県外の大学なんか出したらもうおそらく生活費まで仕送りしなきゃいけないわけですから、年間何百万を最低4年間ですからね。だから、なかなか難しい感じがするなと思って。ある程度お金が限られているので、どこに使っていくかっていうと、下の年代からみんながひとしく経験するところからなべて下げていくっていうことのほうが先にやらせていただきたいかなと思っています。

なので、私は、ともかく政府に求めていくことは何かというと、結局、政府にやらしてもらおうと思うと政府にもやっぱりお金が要る。それはやっぱり今までと同じようなお金の求め方ではなくて、負担する余力を持っているところにもうちょっと負担してもらおう、というやり方を通じて所得再配分っていう政治の一番、財政、政治の一番大事な機能をやっぱり回復させて、全体に、社会全体にお金が回るようにしていく。いろんな教育の問題とか、財源確保って必ず出てくる子育て負担を減らしていくとか、いろんなサービスを充実していくにはお金が必要になりますけど、それを負担できる能力がある人はいるんです、大企業の労働分配率50%ぐらいですから。中小企業だと70、80%近いのかな、そんな

数字ですけど、負担余力がある方々に少し負担をしてもらうというふうなことを含めて、そういう政策を実現してもらうということが大事だと私は思っています、そういうことを実現していきたいと思っています。

○服部会長 そうしますと、島根県が目指す将来像、それから①のところでも議論になりましたこの島根創生計画の一番根本となることですね。それから、合計特殊出生率等の数値目標と10年延長してそれを達成することを目指すということ、大きなところについては皆さんの合意が得られたということによろしいでしょうか。ありがとうございます。

それでは、具体的な書きぶりや計画の本体に対するご意見につきましては、県でしっかりと受け止めていただき、整理していただければと思います。

それでは、少し時間が過ぎておりますけれども、島根創生計画に基づく取組の実施状況について毎年度報告をいただいております。令和5年度分の取組について、事務局から簡明にご説明いただければと思います。

○事務局 （資料について説明）

○服部会長 ただいまの説明につきまして、特に何かありましたらお願いします。質問ありますか。大丈夫ですね。

もし、後で見ていただきまして、お気づきの点ありましたら事務局にお問い合わせいただければと思います。

本日は各委員から幅広い分野にわたる貴重なご意見を頂戴いたしました。いずれも重要な視点からのご意見であったと考えています。事務局でしっかり検討をお願いします。よろしくをお願いします。それでは、知事から一言コメントをお願いいたします。

○丸山知事 時間が限られてる中で長話をいたしまして、大変失礼いたしました。

本日、頂戴いたしましたご意見につきましては、資料でご紹介しましたほか、場面でいただいたご意見も含めて計画の最終案の本文のほうに、計画本体のほうに反映していくもの、それから場合によってはアクションプランですとか、また来年度予算以降に反映していくもの、段階が分かれるかと思っておりますけれども、必要な取組を具体的に検討していきたいと考えているところでございます。

本日は、長時間にわたりまして、この朝早い午前の時間帯からご参集、ご議論いただきまして本当にありがとうございました。また引き続きよろしくお願い申し上げます。

○服部会長 私から一言発言させていただきます。今日で実質的な審議は最後と思いますが、先ほどどなたかからご発言頂きましたが、知事の思い、県の思いが、パブコメ等の意見を



読みますとなかなか伝わってないもどかしさを感じます。私たち委員同志では本日の審議を通して共有できたと思っていますが、審議会の想いとしてぜひそれぞれの場で今度は各委員の皆様方から関係のある人、それから組織も含めて浸透させていっていただきたいと思います。島根創生は、県民全員が共通の意識を持って取り組まないと、駄目だと思います。知事がしっかり旗を振り、県が一生懸命取り組む、そして県民一人一人が自分のこととして取り組んでいくことが重要です。そこにつきましては、ここでの審議と同等以上に大切な役割とご理解頂きご協力を賜れば幸いです。ぜひよろしくお願いいたします。

最後に、その他として今後の進め方等につきまして、事務局からお知らせをお願いいたします。

○事務局 本日いただきましたご意見でございますけれども、各施策の担当課と共有をさせていただき、計画の最終案を策定する上での参考とさせていただきます。

また、次回の審議会でございますけれども、12月10日に予定をしております。当日は、計画の最終案につきましてご説明させていただきますとともに、県への答申案についてご議論いただく予定としておりますので、ご承知くださいますよう、よろしくお願いいたします。

○服部会長 ありがとうございます。

それでは、皆さんお忙しい中、ご出席いただきましてありがとうございます。

また、県からは丸山知事はじめ、政策企画局を中心にご出席、また、準備いただきましてありがとうございます。よい島根創生計画になり、島根県の明るい未来が描け、それが実現できるように取り組んでいければと思います。本日はありがとうございます。今後ともよろしくお願いいたします。